

# News release

2019年8月29日

## 経皮吸収型 持続性疼痛治療剤「フェントス<sup>®</sup>テープ」のオピオイド鎮痛剤未使用の がん疼痛患者への適応拡大に関する承認事項一部変更承認申請のお知らせ

協和キリン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：宮本 昌志、以下「協和キリン」）は、本日、久光製薬株式会社（本社：佐賀県鳥栖市、代表取締役社長：中富一榮、以下「久光製薬」）が経皮吸収型持続性疼痛治療剤「フェントス<sup>®</sup>テープ（開発コード：HFT-290、一般名：フェンタニルクエン酸塩、以下「本剤」）」のオピオイド鎮痛剤未使用患者への適応拡大に関する承認事項一部変更承認申請を行ったことを、お知らせします。

久光製薬は、オピオイド鎮痛剤未使用のがん疼痛患者を対象に0.5mgより投与を開始した臨床試験を行い、有効性、安全性を確認しました。

本剤は、2010年4月に「中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛」を効能・効果として製造販売承認を取得し、2014年6月に「中等度から高度の慢性疼痛における鎮痛」の効能・効果の追加承認を取得しております。また2018年7月には「0.5mg」の新用量追加に関する承認事項一部変更承認を取得しております。

なお、久光製薬は2021年2月までの本剤のオピオイド鎮痛剤未使用のがん疼痛患者への適応拡大に関する承認取得を目指しています。

協和キリンは、久光製薬と2010年6月より本剤の製品流通、情報の提供および収集活動を行っています（1ブランド2チャンネル）。協和キリンは、引き続き久光製薬との本剤の共同販売、適切な情報提供を通じて、がん疼痛および慢性疼痛に苦しむ患者さんのQOL向上により一層貢献していきたいと考えています。

協和キリングループは、ライフサイエンスとテクノロジーの進歩を追求し、新しい価値の創造により、世界の人々の健康と豊かさに貢献します。